
魔法少女まどか マギカ ジョジョ

ウマのフン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女まどか マギカ ジョジョ

【Nコード】

N3042U

【作者名】

ウマのFUN

【あらすじ】

10割ノリで書いた作品です

この間、連載してるほうのまどか マギカの二次創作でジョジョネタを少し出した時になんともなく思いついたのですが続きが思いつかないので短編で載せました

（前書き）

ジヨジヨネタを思いついたのに続きが思いつかなかったから書いた

私、潮見女々は退屈が嫌いだ

退屈なのは平和だからいい事と一部の大人は言う

退屈は猫を殺すと誰かは言った

私は誰が言ったか忘れたけど退屈は猫を殺すと言っ言葉を全力で肯定した

私にとっての平和は適度なスリルと適度な退屈がある事だ

ただ今、私が暇なのは適度な退屈ではなく無駄な退屈

これ以上退屈が続くなら私は多分、暴れて他人の平和も砕くだろう

なんて事をする訳も無く

別に退屈は猫を殺すを肯定するとかそんな事も無く

今のはただの戯言で、フィクション

実際の人物、事件、団体などとは一切関係ありませんってね

そんな私には一つ、少し異常な力があつたりする

でもそれを説明するなんて無駄で滑稽な事はしたくはないし何より面倒くさい

むしろ後者が本音

小説内に置いて説明というのは無駄なモノでも無く滑稽なものでもない

必要な物である

ただ、面倒臭いのだ

だから私は説明しない

やっぱりコレも戯言

いつもの通りくだらない事を考えながら片手にソフトクリームを持ちベンチに座ってボーっとするのが私の好きな事

退屈は本当は嫌いじゃない

でも暇は嫌い

暇と退屈は同じけどね

「で、これは一体何？」

私は何時の間にか変わっている景色を見つつ隣に立っている金髪縦ロールの少女に問いかける

胸でっかいなこの子

見た感じ中学生で身長もさほど高くないのに胸はそこらの大人に引
けをとらないくらい大きい

まあ女である私はそれに対して持つ感想は妬みだけなんだけど

ちなみに私はAカップ

「魔女の結界よ」

そして説明を始める金髪縦ロール

初対面の相手によくもまあ親切な事で

でも私はそれが『敵』であると分かれば情報としてはそれで十分だ
後は、殺すだけ

ザ・ワールド、時よ止まれ

全ての時が止まり迫って来る使い魔も止まる

私のスタンド、ザ・ワールド

どうやら会った事もない父のスタンドを受け継いってしまったらしく
私のスタンドは父と同じ物となっていた

私の髪は父と同じく金髪である

小学校まで黒髪だったのにいきなり金髪になるものだから教師には
目を付けられるわ親から叱られるわ（当然、義理の両親である）散

々だった

どこか遠い国に旅だつて行つた父の同じ兄だけど育ての親が違い名字も当然違う兄も同じ感じだったそうだ

ちなみに兄は大分虐められていた

今はギャングスターに憧れてイタリアでギャングスター目指して頑張っているそうだ

ぶっちゃけどうでもいい

ギャングなんてくだらないモノ目指してる兄なんて拳銃で撃たれて死んでしまえばいい

ジヨルノジョバアーナ、それが兄の名前である

一度黒染めした私の髪は次の日にはすぐに金髪に戻った

それで親も染めた訳ではないと分かり病院行つてみてもらったりまあ色々

その時から私の背後には人間のようなシルエットの誰にも見えない亜人が立っていた

私の思い通りに動くいわば武器のようなもの

だってそもそも私の意思でしか動かないのだから

それが人であるはずがなく、生き物であるはずがなく

以前会った父の宿敵だったと名乗る青年、くうじょうじょうたろう（漢字は知らない。名前を聞いたただだから）はコレをスタンドだと教えてくれた

父と同じスタンドを持つ私を一時は殺そうとしたがその時の私は子供で、だから何時かもし私が悪事を働くような事があれば容赦なく殺すという約束をして、私は今生きている

そもそも会った事もないような父が原因で死ぬところだった事を考えると父の墓まで行って全力でその墓石と遺骨を粉々に砕いてやりたいところだけどそもそも遺骨も墓石も無いらしい

吸血鬼だったらしい

それも世界の平和を100年近く脅かした

道理で私の胸の成長が遅いはずだ（本当は母譲りである。母よ。なぜそんなデメリットを受け継がせたのだ）

と私は思った

まあ実際、私は怪我の治りが早いし日焼けしやすいし爪が伸びやすいし髪も伸びやすい

成長だけが著しく遅かった

未だに身長142？

中学3年生が、だ

なんで身長だけが伸びないのだろう

おかげでお洒落なんて意味もないので私は基本長ズボンにパーカーである

薄着だとすぐ日焼けするのでそうした方が健康上いいのである

しょっちゅう小学生、それも低学年と間違えられるけど勘違いするでない

私は中3だ

誰がなんと言おうと中3だ

受験生だこん畜生

いい加減、魔女を始末しないと時間がなくなる

私が時間を止めていられるのは3分が限界

それでもかなり長いほうだとくうじょうじょうたるうは言っていた

くうじょうじょうたるうは5秒

父もその程度だったそうだ

だからくうじょうじょうたるうは私を殺そうと考えたのである

私のスタンドは父の比じゃなかった

止まっている使い魔にナイフを一本ずつ投げつける

そして魔女の居るであろう場所まで歩く

一旦時を動かした

そこに居た使い魔は全部ナイフで串刺しにされて消滅した

ナイフをスタンドで回収し先へ進む

先ほどの金髪縦ロールが驚愕していたがそれを無視して魔女の所まで行く

「ちょ、ちよつと！あなた何をしたの！？」

「ただ、止めたただだよ」

時間を

扉を蹴破り中に入る

部屋の真ん中に居たのは真っ黒い人

背中に4対の羽が生えている事意外はただ黒いだけの人である

あれ、コナン君とかに出てくる正体不明の犯人Xさん

アレに羽を生やしたような図

犯人X（仮）は翼を振るい私達を殺そうとしてくる

飛んでくる羽が鬱陶しい

だから私は全てスタンドで殴って落とす

「無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄！ W R Y Y Y Y
Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y」

この掛け声は癖のようなものだ

ハッキリ言って恥ずかしいのだけれどつい口に出てしまう

血は争えないと言っのだらうか

父もこんな感じだったそうだ

今すぐ地獄へ行つて父を泣くまで殴つてやりたい衝動に駆られたけど私が死んでも地獄にいけるかどうか分からないから止める

自意識過剰？うつさい

ザ・ワールド

最初から使えば良かった

あと30秒

魔女を殺すには十分だ

持っているナイフ1000本を全て魔女に投げつける

そして時は、動き出す

ドガンとナイフが刺さったとは思えないような轟音が響き魔女が飛んでいく

私の力は異常だった

それは身体能力的な意味でも通用する

ボディビルダーでも私に力で勝てないぐらいの怪力

コンクリの壁でも砕ける

でも勘違いするんじゃない

私の体は別に筋肉ムキムキと言うわけではない

むしろ細い方だ

それなのになんでこんな力が出せるのか

それは人間ではない化物の血が、混ざっているからなのだろう

案の定、先ほどの金髪縦ロールには引かれた

別にいい

私は誰かと馴れ合う気はない

口を開いたのもかなり久しぶりだった

スタンドを使う機会なんてのもまったく無い

ましてスタンドでラッシュなんて今までほんの数回しか無かった

ちなみにその数回というのは例えば、海でクルーザーに乗っていたら転覆して鯨に襲われた時とか（ちなみに翌日日焼けで3日動けなくなった。それ以来海には絶対連れて行ってもらえなくなった）

例えば、脱走して来たライオンに襲われた時とか

まあそんなところだろう

ちなみにライオンの時は殺してしまった

当然、中学入りたての小娘にそんな真似が出来るなんて誰も思わず、私はその場に居たにも関わらず疑われなかったが

そんな感じで今まで過ごして来た訳だけど

どうやら今回の件で非日常に首を突っ込んでしまったらしい

コレからはスタンドを使う機会が増えそうだ

なんでそう思ったか

それは

「僕と契約して魔法少女になってよ！」

という明らかに怪しげなセールスを行っている小動物が目の前に居るからである

ちなみに契約してくれたら願いを何でも一つかなえてくれるらしい
どんな途方も無い願いでも

だがその言葉にだまされてはイケないと思う

「断る。たった一つの願いで一生の戦い？割りに合わないにも程があるよね。あのさ、エントロピーって言葉しってる？」

その契約の言葉を一蹴し私はキュウベえから離れる

まあ魔女狩りぐらいはしてやろう

でも契約はしない

そもそもスタンドで十分倒せるのに契約する必要性があるのだろうか

まあ、とりあえず、今日の暇をどうやって潰そうか考えよう

（後書き）

そんな感じで書いた短編です

またまどマギか。そんなに好きかと聞かれそうですが別にそんなに好きって訳でもなく

いや好きですけどね

ほむら見てたらジョジョネタ思いついたけど続きが思いつかなかつたから適当に書いて見たというだけ

ちなみに主人公はジョルノジョバァーナの妹（？）

明らかに年齢が合わない様な気がしますですが気にしないでください

それではまたいつか

連載にする予定はないです（多分

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3042u/>

魔法少女まどか マギカ ジョジョ

2011年6月24日15時58分発行